

フランス武徳祭感想

大阪修武会 高校三年 山崎 孝太郎

フランスでの武徳祭を終え今までにない経験を終えることができました。

八月一日の朝、私は大阪修武会から一人での出場であったため、不安という心情からの旅立ちでした。しかし他道場の先生方、道場の子達がとても気さくに話して頂けたおかげで私自身も何不自由なく過ごすことができました。支えて頂いた先生方、ありがとうございます。

一週間という期間の中で私が最も驚いたことは、日本から始まった武徳が全世界に伝承されていたことでした。初めて会場を訪れた際に今回参加されていた十四か国の国旗を見、鳥肌が立ち、日本人としてとても誇らしかったです。そしてなにより脳裏に焼き付いているのがアメリカ組の演武でした。全体での動きがまるで蝶のように舞っているように見え、それぞれ一人一人の動きは蜂のように鋭かったのが印象的でした。武徳でこれまでにアメリカという国を表現されており、国内大会では体感できない経験ができ、私にとつてのフランス青少年武徳大会は、大変良い人生経験となりました。

ホームステイの方々によるサポートもたいへんよくフランスの象徴である自由、博愛、平等を、コミュニケーションを取るにつれ感じることができ日々ホームステイの方々と話すが楽しかったです。しか

し互いに言語が違うため、食事の際などに生じる独特の雰囲気もまた私にとつては新鮮な体験でした。クレルモン・フェラン市では私が住んでいる町とは大きく異なり、大変自然に恵まれている町でもありました。したがってホームステイの方々とお話しにつれBBQやピクニックといった海外の文化にも触れることができました。

フランス武徳祭では、自己の演武だけではなく海外の文化、風習に触れることができ、今までは、国内だけに視野を置いていた私ですが、海外へと視野を向ける良い機会となりました。これからも積極的に海外に足を運び沢山の経験を積んでいきたいです。

将来の夢と武道 「フランス武徳祭」

至誠館 中学校二年 渡邊 大也

私は、この一週間のフランス武徳祭を通して、行く前に書いた作文のテーマである「将来の夢と武道」と至誠館のこれからの課題について考えました。

約一週間を通して、道場全体の成長した部分と課題となっていく部分が見られました。成長した部分は、伝えなくてはいけない事はちゃんと伝えられる様になった所です。大会に行く前の当道場の選手達は、あまり伝えたい事を上手く表現する事が出来ませんでした。しかし、全く言葉の通じないフランスでホームステイした事で、ペアの子と

協力して、自分達なりの方法で伝えなくてはならない異文化世界に滞在しました。この経験を、自分の気持ちを伝える事が出来なかつた選手も、はっきりと自分の思いを伝える様になりました。課題になっていく部分もありました。至誠館の選手は全員プライドが高く、仲間のとわかり合おうとしない性格や、自分の主張を貫き通す性格、絶対に諦めたくない性格など、まとまる意識のある人とならない人のそれぞれの気持ちの違いにより、一つにまとまる事が出来ませんでした。至誠館青少年部で一番段位が上のため、まとめなくてはいけない立場でしたが、まとめる事が出来ませんでした。

私は「将来の夢」とは自分自身の希望であり目標だと思っています。その目標があるからこそ、それを実現しようと努力をしていきます。フランスでの一週間を通して、道場の選手達の間には明確な目標が定着していない事に気付きました。一人一人に目標があるのですが、道場としての目標はありません。私は目標が出来れば、各々のプライドが高い至誠館だからこそ、必ずやり遂げると思います。次の全国大会は演武中もそれ以外の時間も礼儀正しくまとまった至誠館になれるよう、道場一丸となって最優秀賞をとりに行きます。そして、自分自身も絶対に変わる事のない将来の夢、目標を武道を通して見つけに行きます。そして気付きをもらったフランスで出会った温かい人々、お世話になった方々に会いに行き、感謝を伝えたいと考えています。



このフランスでの一週間で成長したところを全国大会でみて頂ける様、努力して団体・個人共にこの至誠館のみんなで最優秀賞をとります。そのためにも全国大会迄の一ヶ月を大切に、日々の鍛練を積んでいきます。

フランスの思い出

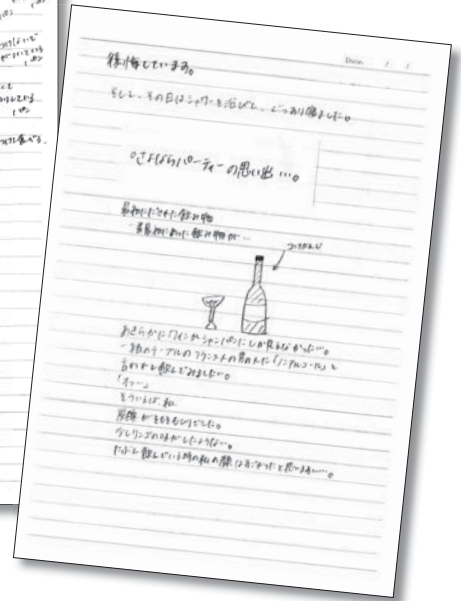
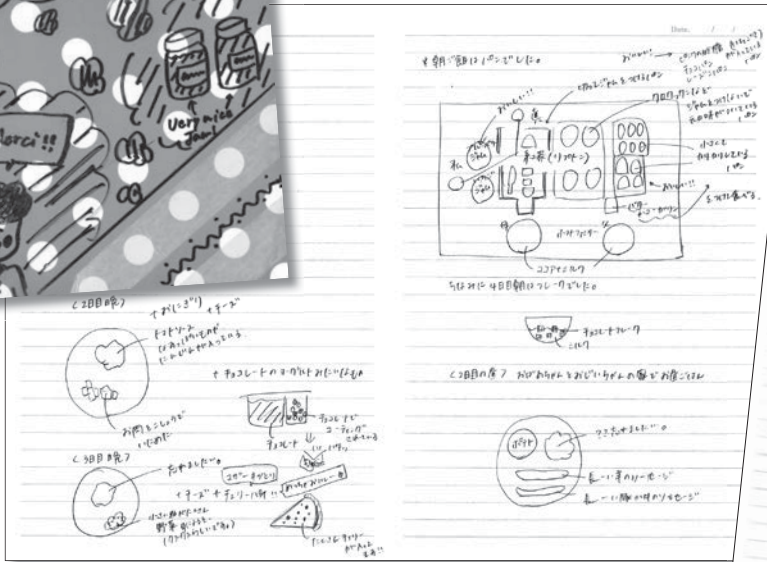
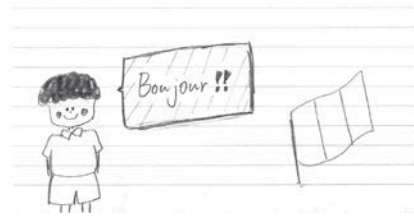
至誠館 高校一年 野本 真由

私は八月一日から七日までの間、青少年武徳祭のためにフランスに行きました。

実は初めての海外で飛行機が事故を起こさないか、凄く不安でした。なので、このように無事に帰って来れて良かったです。

私はフランスに行くにあたって前に書いた通り不安もありましたが、楽しみもありました。まず、フランスに着いてから見た景色は日本とは全く違っていて本当にフランスに来れたんだ、と実感が湧いて嬉しかったです。

私達は青少年武徳祭以外にも、観光や植樹式などたくさんすることがありました。観光では、旅行でフランスに来たのなら行かないであろう場所にも行けたし、植樹式では、普通の人なら滅多に出来ないような一生に一度の体験をすることが出来ました。どれも全て私にとって印象深い経験でした。



フランス武徳祭・国際青少年大会に出場が決まった日からきびしい
けい古が始まりました。元氣なあいさつ、大きな声で返事をするこ

フランス武徳祭・ 国際青少年武徳祭に出場しました

至誠館 小学校三年 渡邊 眞子

そして、一番印象に残っているのは、やはり、青少年大会です。本番はみんなの声がいつもより二倍くらい大きくて私も技をしていて、何だか気持ち良かったです。また、他の国の演武を見ると、他の国にも日本の文化を受け継いでいる人達がいるんだ、と思えて嬉しかったです。

私達の団体は優秀賞という結果で少し悔しかったです、色んなことを知れて良かったです。

今回の大会は私にとって、二度と出来ない経験でした。

居合道に今まで以上に興味が持てたし、これからも続けていきたいな、と思うようになりました。

最後になりましたが、私がこのような経験をすることができたのは、多くの先生方、両親やホストファミリー、国際部の方々など、たくさんの方の協力があったのだと思います。本当にありがとうございました。

この経験が無駄に終わってしまう事無いよう、これからもこの経験を自分の生活に活かしていきたいと思えます。

正しい姿勢で礼儀作法ができること。何度も何度もくり返し練習しました。先生はがんばっているとき、ほめてくれたので一生けん命練習をして良かったです。

大会前日はリハーサルをしました。演武する位置や号令に合わせて整列したり、みんなでたしかめました。大会当日は、きん張してしまい、思うように大きい声を出すことが出来ませんでした。目標の最優秀賞は取れませんでした。が優秀賞を受賞することができたので、とてもうれしかったです。大会まで教えて下さった先生方、優秀賞を下さった先生方に、とても感謝しています。次の全国大会ではしっかりと古い古が良い結果が残せるように、これからも一生けんめい練習します。浜田先生から言われたことをしっかりと守ります。時間をきちんと守ります。会話をするときは、話す人の目を見ることを心がけます。けい古が始まる前はだれよりも先に準備をして先生を待ちたいと思います。武道の歴史や学校の勉強、家のお手伝い、たくさんのお友達と仲良くします。多くのことができるようになります。一生けん命がんばります。



日本代表としての一週間

至誠館 中学校二年 中村 航太

八月五日に行われた国際青少年武徳祭に、日本代表として出場させていただいて、一生忘れない思い出ができた。だが、注意を受けてばかりで、自分の未熟さを感じた一週間だった。

僕たち至誠館を始めとする大阪組は、八月一日に関西国際空港からDNLオランダ航空に乗り、アムステルダム経由でリヨンに到着した。そして、バスでクレルモン・フェラン市に入った。この時は、まだ浮かれていた。観光気分だった。次の日は市内観光だったので、そのままの気持ちだった。三日目には、DNBK桜パークの記念植樹式があった。せめてその時から気持ちを引き締めれば良かったのに、皆楽しそうに見えて、自分もリラックスしてしまっていた。四日目はリハーサルがあったが、なぜか少ししか緊張しなかった。いよいよ五日目、フランス武徳祭・国際青少年武徳祭となった。リハーサルどおり進んでいた。普段どおりの演武ができた。不思議なくらい緊張しなかった。いや、緊張感をもつことができなかった。こんな日にも、気持ちを引き締められないまま臨んでしまった。見る姿勢にも緊張感がなかった。だから、至誠館は最優秀賞を取れなかったのだと思う。未熟な自分のせいだと、先生や仲間にしん訳ない気持ちでいっぱいだ。

このことを深く反省し、稽古に精一杯取り組んでいく。そして、全

国青少年武徳祭では、団体、個人共に最優秀賞をとれるよう成長したい。

国際青少年武徳祭に参加して

至誠館 小学校二年 中村 周平

八月五日、国際青少年武徳祭で演武しました。全国青少年武徳祭をした武徳殿とちがつて、広い体いく館のようなどころにたくさんの方が来ていました。ぼくたちは、日本代表のほかの道場の人たちと同時に演武しました。

閉会しきでは、はじめに団体賞が発表されました。最優秀賞に至誠館はよばれませんでした。でも、優秀賞をもらいました。そのあと、濱田先生が「青少年全いんに参加賞をわたします。」と言われました。ぼくは何も個人賞はもらえないと思っていたので、びっくりしました。大きなトロフィーをもらえてうれしかったです。武徳祭までずっときんちようしていたけれど、少しほっとしました。九月の全国青少年武徳祭では、最優秀賞をもらえるようにけい古をがんばります。

フェアウェルパーティでは、ほかの国の人に日本らしいものをあげたり、ソーランぶしをおどったりしました。ホストファミリーの家では、おみやげをわたしたり、ごはんを食べてもらったりして日本のことを知ってもらいました。つぎは、二〇二〇年に日本で交流できるのが楽しみです。

フランス武徳祭

至誠館 中学校一年 熊野 隆星

ぼくは、朝起きたらもう緊張していて、朝ご飯をあまり食べられませんでした。その後着がえをして、会場に行きました。会場に着くと、とにかく人が多かったです。日本の演武は開会式の後だったので、入場するときから緊張していました。でもちゃんと声を出せました。演武はほぼかんぺきにできたけど、最後に下緒を落としてしまったのが残念でした。最後の表彰式では、賞がもらえるか心配だったけど、優秀賞が取れたのでうれしかったです。

フランス武徳祭当日

至誠館 小学校五年 熊野 風起

ぼくは、大会の日の朝うまくできるか心配でした。先生たちの、演武が終わったら一番は日本でした。ぼくは、いつもけい古でやってい

る事ができるか不安になりました。でも、国旗に礼をして自分の場所
にいて、演武が始まったら、いつもけい古でやっている技ができた
した。すごく、きん張したけどうまくできて良かったです。

フランスに行つて

至誠館 小学校四年 上野 こうき

ぼくは、フランスに行つて思った事や学んだ事があります。それは、
ホストファミリの方々はやさしいなあと思つたことや、国さい部の
方々は、すごいなあと思つたことです。

ホストファミリの方々は、食事もおいしく作つてくれるし、せん
たくも、やつてくれるので、すごくやさしいなあと思ひました。国さい
部の方々は、おじぎをして待つていてくれるし、荷物をもつてきてく
れたり、ぼくたちが来たら、おじぎをしてくれたりしたので、すばら
しいなあと思ひました。これがぼくの思つたことや学んだことです。

全国大会では、ホストファミリの方々や国さい部の方々のように
行動します。これからは、フランスのけいけんを、生かしてしっかり
やつていきたいと思ひます。次の全国大会もがんばりたいと思ひます。

フランス大会

至誠館 小学校二年 ひらやま りゅうせい

ぼくは、フランスにいて大会でさいしょはまちがえるとおもつ
たのに、だいたいまちがわなかつたのでよかつたです。
あとトロフィーをもらったので、うれしがつたです。

しゅうへいとけんかしたけどなかなかおりしてよかつたです。
さよならパーティーが一ばんのしかつたです。
ホームステイのあさごはんがおいしかつたです。
ほとんど日本のごはんでした。

大きくなつたらさくらを見にまたフランスにいきたいです。

ぼくと居合道とフランス

こばと修童館 小学校五年 山岸 大真

ぼくの声で演武が始まる。心ぞうがドキドキ鳴った。手も足も少しふるえていた。でも自分の耳に入ってくる声はふるえていなかった。落ちて着いて演武ができると思った。演武は夢中でしていたので、あまり覚えていないけれど、とても長い時間だったような気がした。前にならぶ中学生はいつもよりも上手だった。でも、ぼくも間違えないようにがんばった。終わった時は力がぬけてしまった。でも



また足が震えてきた。先生たちの演武はともにかっこよかった。会場全体が静かで「えいっ」「やあっ。」の声だけがひびいていた。

フランスに行くことをずっと楽しみにしていた。暑い日の合宿もつらくなかった。どんなお家かな、どんな友達かな、どんな料理かな。不安なこともあったけれど、見たことや経験したことは全部楽しい思い出になった。ホームステイ先のマティスさんと仲良くなれて、つみきを積み上げて抜き取る遊びを何回もして遊んだ。大阪の友だちもできた。いっしょに行つたはるきくんは、出発前に腕を骨折してしまつたのでかわいそうだと思った。でも、痛いのに外国にがんばって行くのだから、ぼくにできる手伝いをがんばろうと思った。いっしょに行けて本当にうれしかった。楽しい時間はあつと言う間だった。

これまで熱心に居合を指導してくださつた先生方や会長の野村さんにいっぱいお世話になつたおかげで、一生に一度しかできない経験ができた。ぼくはフランスのいいところがたくさんわかつた。今度は日本がいいところを見つけて、外国の人に教えてあげることができる人になりたいと思った。ありがとうございました。

青少年武徳祭を終えて

こばと修童館 高校三年 中田 太郎

僕は今までアメリカ、カナダ、イギリスと三回の青少年武徳祭に出場しました。そして、今回のフランス大会で四回目の出場となりました。

第三回のイギリス大会では日本の旗手をさせて頂きましたが、今回といった責任重大な役割を二つも頂きました。自分の役割を聞かされた時にはびっくりしましたが、精一杯、頑張ろうと思いました。

本番になり実際に選手宣誓をした時には初めてだったので緊張しすぎて、何を言っているのか自分でもわからないほどでした。それでも何とか自分の役割を一つ終えられてホッとしました。

一方で居合の演武はいつも通りに緊張せずに精一杯の演武をすることができました。他の国の方々の演武も見ましたが特にフランスの演武が大人数でしっかり揃っていたので、とても迫力がありました。

すべての演武が終わり、表彰式では僕たちのこばと修童館がみごと最優秀賞をいただきました。これまで皆で稽古をしてきましたが、本番では気持ちを合わせ、一番良い演武ができたように思っていたので、認められたことがとてもうれしかったです。

今回のフランス大会では良い成績も残せましたし、日本の他のチームや外国の方たちとも交流ができ、とても楽しく良い思い出になりました。

フランス武徳祭

こばと修童館 中学校二年 横井 鉄也

このフランス武徳祭での目的の一つにしていた「フランスの文化を知り、日本の文化を伝える」という目的は達成できたと思いました。フランスでのホームステイの時、ホストファミリーの方にいろいろな人に会わせてもらい家を見せてもらったりしました。フランスにいる七日間、日本との違いをとて感じました。ですが大会会場においては、通じることもありました。それは武道家の心です。普段、道を歩いている時、人とぶつかりそうになったら自分も相手もそれを避けようと左右に動きます。ですが武徳祭会場はそうじゃなく、自分の為ではなく、相手の為に道をゆずり合っていました。この心は、国の違いが関係なくても少なくとも今回の大会に参加していた人達からは感じられました。なので、その武道家の心を九月の全国青少年武徳祭に参加している団体へ伝えられるようにしたいです。大会の演武では、緊張のせいか刀がぶれる事が多々ありました。でも大人の演武では、緊張している人がほとんどいかなかったように思います。僕は本番で落ちついて演武できることが少ないので、大会では落ちついて課題を克服出来るように望みたいです。そして、演武の時には、自分達の練習した技を出し切れるようになります。

フランス武徳祭に参加して

こばと修童館 中学校一年 九谷 美桜

八月五日、フランスのクレルモンフェラン市 Artemiumにてフランス武徳祭が行われました。この大会に向けて、私たちこばと修童館は毎週日曜日の練習に加えて、七月には合宿にも行き、集中的に練習を重ねてきました。私も苦手なところを意識して取り組み、練習以外にも日本人としての礼儀や作法など、正しく身に付けられるよう気を付けて準備してきました。

大会当日は、ホストファミリーに送ってもらい会場に集合しました。そして皆で集まり、最後の練習をしました。演武する場所は濱田先生や竹田先生、審査員の方々の前なので、とても緊張しましたが私は絶対に目を動かさないように前を向き、演武することに集中しました。練習・リハーサル後、皆で先生に呼ばれて行くと、急ぎよ、「人数配置の変更をする」とのことでした。本番前の突然の変更に驚き、焦る気持ち、不安な気持ちも出てきました。でも、先生の指示があったからにはやるしかありません。覚悟を決めて、いざ本番！ものすごい緊張感の中、今までの練習のすべてを見てももらえるよう一本一本丁寧に演武していきました。変更になったところも上手くいったのでそれも今までの練習があったからこそ。改めて練習、努力の積み重ねの大切さを感じました。私個人としては、七本目のところで間違えてしまい

ました。その時は、「しまった」と心の中で思ったけれど、何もなかったようにこらえて、表情を変えないように必死に演武を続けていきました。その時のことを思い出すと、今でも悔しくて忘れられません。結果は、最優秀賞を頂くことができました。海外の方々の演武はとも迫力があり、かつこよく日本人以上にきれいだったので、自分たちが賞を頂けて、驚いたし、すごく光栄で嬉しかったです。一生忘れない、最高の思い出ができました。

次は、京都の全国武徳祭です。今回の反省を踏まえて、悔いの残らないような演武ができるように全力で練習に取り組んでいきたいと思えます。

フランス武徳祭

こぼと修童館 小学校五年

中村 姫梨

私は居合いでフランスに行きました。一日目にホテルに行ってホストファミリーの方に初めて会いました。会ったときに濱田先生がシェフだと教えてくれてびっくりしました。

ホームステイの所に行って子供の女の子二人にも会いました。ホストファミリーの家族はみんな優しくかったです。それにしゃべりやすいので色々話が弾みました。

二日目に山へ行きました。武徳祭に出場する外国の人と京都の人と

会いました。その時に友達もできました。楽しかったです。そして植樹祭と武徳祭などの事について濱田先生から話を聞きました。そして解散してホストファミリーの家に帰りました。ゴム飛びやセグウェイでホストファミリーの女の子と遊びました。

三日目に植樹式がありました。桜の木を植えました。濱田先生の話をお聞きしました。外国語も言っていました。すごいと思いました。桜の木を植える時は野村さん、山岸さん、松田さんと私で植えました。緊張して手が震えました。植樹式が終わったときはホッとしました。

その後はホストファミリーの所へ帰りました、ペットの猫のミミと犬のジャングーと遊びました。犬のジャングーがとてもなついてくれました。

四日目に火山がメインのテーマパークに行きました。そこで土産を買いました。その後に武徳祭のリハーサルがありました。明日が大会なので緊張しました。

五日目にとうとう武徳祭の本番になりました。みんなとタイミングを合わせて刀をしまう時にしまう所を見ないようにタイミングを合わせようと努力しました。なるべく音がなるようにもしました。大会で全力が出せて良かったです。

これからも全力が出せるようにしていきたいです。

武徳祭が無事に終わったらさよならパーティーがありました。その時に食べた料理を作ってくれた人がホームステイの人だったのでいいと思いました。それにとてもおいしかったです。外国の人と友達になれてとても良かったです。濱田先生にサインがもらえました。

六日目に人形劇を見たり観光したりしました。次の日は寂しいけれど飛行機に乗って帰りました。

私が大人になったらもう一度フランスに行ってお世話になったホス

トファミリーに会いに行ったり、植えた木が育ったところを見たいです。フランスに行けた事がとても幸せです。

フランスに行つて

こぼと修童館 中学校一年 中田 花

私は、このフランス武徳祭に行った時に海外の人たちが日本の文化をどう思っているのか、その人たちの武道がどのようなものかを見て日本とどこが違うのか、似ているのかを比べてみたいと思つていました。

私はホームステイ先でたくさん話をしました。私たちに合わせて英語で話してくれ、会話ができた事がとても楽しかったです。ホームステイの方が私がやっている居合道がどのようなものかを知ろうとしてくれていて私はとても嬉しかったです。他の国の文化などを積極的に知ろうとしていてすごいと思いました。私は大会があった時に外国の人たちが日本の伝統的な武道を行うだけではなく、日本語でしっかりと挨拶をしていることが素晴らしいと思つていました。「おはようございます」「ありがとうございます」「失礼します」「いただきます」など外国の人たちが言っているのを聞いて私たちが逆にしつかり言わなきゃいけないと思わされるほどでした。

他にもさよならパーティーでは私たちが日本のソーラン節を踊って

ほかの国の人とたくさん触れ合えました。ハッピや鳴子を渡すと踊ってくれる子もいて嬉しかったです。その後、私たちが折り紙を折つていた時に他の国の人に興味を持ってくれ、たくさん外国の人にも折り方を教えることができて、とても楽しかったです。

二〇二〇年には京都で世界武徳祭が開かれると聞きました。この年は東京オリンピックがある年なので、武道のオリンピックともいえるかもしれません。今からとても楽しみです。その時にもたくさん日本の文化を知ってもらえるように今回のようにたくさん触れ合つていきたいなと思います。

国際青少年武徳祭 フランス大会に参加して

こぼと修童館 小学校五年 野村 侑芽加

わたしは、八月一日から八月七日までフランスに行つていました。行く前は、フランスは都会だと思つていました。しかし、クレルモンフェラン市は、とても自然がいっぱいで、豊かな市だったので、びっくりしました。

八月二日に、濱田先生がおっしゃられたことで、とても大切なことを学びました。それは、「居合は、サッカーなどちがう。」ということです。サッカーなどは、ルール上で勝負がつきます。しかし、居合道はちがいます。居合道は、ルールで勝負が付きません。とてもすば

らしい演武をして、だれもかもが感動することで勝つことができます。「敵は相手にあり、ではなくて、敵はわれにあり。」です。

このことを演武する前に一度思い出して、フランスで、すてきな演武をしていきたいと思いました。

八月五日に行われた国際青少年武徳祭では、がんばって演武はできたけど、二本目の刀がうまくできなかったので残念でした。しかし、演武が素晴らしいということで、最優秀賞をとることができました。だけど、最優秀賞をとっても、直さないといけないところもたくさんあるので、今後もけいこをして、ミスを無くした演武をしていきたいです。

フランスぶとく祭

こぼと修童館 小学校五年

松田 暖生

ぼくは、七月三十一日から八月八日まで居合の大会で、フランスに行ってきました。

でも、七月二十一日にけがをしまして、右手のほねを、折ってしまいました。病院の先生に、一ヶ月は、このままギプスと言われました。フランスに行く前だったので、武徳祭に行けなくなっと思って、とてもかなしくて、なみだが出てきました。ずっと練習していたえんぶをすることを楽しみにしていました。

大会の日までに治そうといっぱい食べて、いっぱいねました。ちよつとずつ、痛みも治まってきたので、居合ができるかなと思っていたけれど、右手で居合刀を持つことすら、できませんでした。とても、くやしかったです。こんなぼくに、武道をするみんなや先生がたが、フランスへ行くことを許可してくださいました。とてもうれしかったです。演武している時、ぼくは、刀を持ってないから、先生に言われて、その場で正座をすることになりました。入場や退場や正座の時、し勢をよくして、演武している時みたいに、真剣にがんばろうと思いました。フランスに行く中、十五時間くらい飛行機に乗りました。雲の上の景色がとてもきれいでした。機内食もおいしかったです。

フランスでは、やさしそうなホストファミリーのかたがたが待っていてくれました。ぼくは三日間、ぼくと同じ十歳の男の子がいる家に行きました。言葉はちがうけど、ジェスチャーなどを使って遊べたので、楽しかったです。

フランスには、教会やふん水や銅像がたくさんありました。とてもすてきだと思いました。朝ごはんは、みそするとごはんも作ってもらいました。フランスにも、ごはんとみそしるがあることがわかりました。ごはんは、日本とちがっていて、細長かったです。

植じゆ式もありました。さくらの木を植えることができて良かったです。いつか自分が植えた木を見に行きたいです。

テーマパークも行きました。火山のことが良くわかりました。ついでにきょうりゆうのことも、わかりました。

大会当日は、とてもきんちようしました。みんなにめいわくをかけるように、集中しようと思えました。結果は、最優秀賞でした。とてもうれしかったです。早く治して、次の大会は、絶対に出たいと思いました。今度は演武をして、ゆう勝したいです。あと、けがをし

ないようにします。

さよならパーティーでは、海外の人にギブスにサインをしてもらいました。海外の人は、けがをした人に、サインをするとわかりました。サインをしている時、はずかしかったです。でも、うれしかったです。最後に、リヨンへ、観光に行きました。ここでは、有名な人形げきを見ました。言葉はわからないけど、先生から、想像力が高まると言われました。想像して人形げきを見れたので、楽しかったです。

演武ができなくて、くやしかったですけど、フランスで、いろいろなことをさせてもらえて、とてもうれしかったです。

居合をしていて、よかったなあと思いました。これからも、続けていきたいです。

国際青年武徳祭に行つて

こばと修童館 中学校一年 向

杏奈

私は、大日本武徳会日本代表団の一員として国際青年武徳祭に参加しました。初めての外国、フランスに行き日本代表という自覚を持つて行くことができ感謝の気持ちでいっぱいです。遊ぶときは遊んで、居合をするときはする。その、メリハリがとても良かったです。一週間行つたうちの五日間をホームステイをしました。日本語が通じないのでとても心配でした。だけど、言葉がわからなくてもジェスチャー

などでだんだんと会話が出来るようになっていきました。私はそこで、言葉は通じなくても通じ合える！ということを知る事ができました。

最後にいっぱい思い出はあるけど私はまず増田先生にお礼を言いたいです。この国際青年武徳祭に行けたこともそうだし、そこで沢山の事を学ぶ事ができ、いろいろ知る事も出来たからです。その事をこれらの生活に生かしていきたいです。本当にありがとうございました。

フランスに行つて感じたこと

こばと修童館 中学校一年 廣川

華

私はフランスに行つてとてもいいなと思ったこと、感じたことが二つあります。私はその気持ちを感じてとてもよかったと思いました。

一つ目はフランス人、またアメリカ人の優しさです。私たちのホームステイの人はとても優しく、自分が楽しんでもらえるように色々なことをしてくれました。他の国の人もとても優しくしてくれたのでこの関係がこの先ずっと続いてほしいと思いました。

二つ目は武道の大切さです。日本で作られた武道がこんなに多くの人々が一つ一つ大切にやっていることです。私はこれを見てもっと頑張ろうと思いました。そして最優秀賞がとれてとてもうれしかったです。私はフランスに行くことが出来てとてもよかったですと思います。ホームステイの人にはとても感謝しています。ありがとうございました。

初めての武徳祭

こばと修童館 中学校一年 不破 慧音

私は、今回、初めてフランスに行きました。

フランスでは、初めてのホームステイをしました。最初は通訳の人も居ないので、ホームステイに行くのが実は怖かったです。

だけど、いっしょにゲームをしたり、ご飯をたべたりしていくうちに、だんだん楽しくなってきました。

言葉が通じなくても、パソコンやジェスチャーで通じ合う事が出来ました。

ホームステイ先の皆さん、短い時間でしたが、有難うございました。また、武徳祭では、最優秀賞になる事が出来ました。

練習の時よりも声を出す事ができ、目線も落とさずにする事ができました。

本番では良い演武をする事が出来たので良かったです。

フランスでは、初めての体験を沢山し、楽しく過ごす事ができ、とても良い経験となりました。

また行く事の出来る機会があれば是非、行きたいです。

フランス国際青少年 武徳祭を終えて

正守和道塾 小学校四年 近藤 佑樹

一生忘れられない最高の思い出になりました。そして、ぼくたちを支えてくれた皆さんにとっても感謝しています。

「武をもって徳をなす」「世界平和」という濱田先生のお言葉は、今、フランスでの日々を思い出すたびにぼくの心にひびいています。

八月一日、初めての海外旅行にワクワクして飛行機に乗りました。おしゃべりに映画やゲーム、機内食と、長時間の移動もとても楽しい時間でした。窓の外は真っ白な雲の上、その光景にとっても感動しました。

ホストファミリーのフーコーさんはとても優しく、「ずっとここにいたい。」と思ったくらい楽しいホームステイでした。大自然のすばらしい景色、たくさんの動物たち、フーコーさん一家の優しさに心が広く美しくなりました。フランス語や英語、ジェスチャーで交流できたこと、おいしい料理をたくさん食べれたことも思い出です。羊の肉料理、目玉焼きをくださったトーストは絶品でした。

武徳祭では、空手だけでなく、合気道や居合道など色々な形を色々な国の武道家たちが演武しておられ、どれもとてもカッコよく、そして、その光景がとても新鮮に感じました。ぼくは足がふるえるくらい緊張していましたが、深呼吸をして演武をしました。力が入りすぎて、少しふらついてしまったところがありました。力を出しきれなかったこと

を心の中で喜びました。チームしようれい賞をいただき、とてもうれしかったです。そして、これからもっともっと頑張ろうと決意した一日でした。

さよならパーティーでは、アメリカの人たちと一緒にテーブルでした。色々な質問をしてくれて、全部答えることができました。また、ソラン節で使ったはつぴと鳴子をプレゼントし、とても喜んでくれました。こうやって色々な国の人たちと交流を持ち話ができただけ、とても楽しく、これからもっと世界の人々と交流を持っていきたいという思いになりました。

ぼくはフランス大会に参加できて、本当に良かったと思います。空手を始め、上村先生や仲間に出会い、空手のことだけでなく色々なことを学びました。そして、このようなすばらしい体験ができました。

この機会を与えてくださり、ぼくたちのためにたくさん準備や支援・指導をしてくださった大日本武徳会の先生方、皆さま、上村先生、フランスの方々、アメリカの方々、ホストファミリーのフーコーさん、たくさんの方々に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ずっと一緒に頑張ってきた仁くん和日本選手団の皆さん、応援してくれた家族にも感謝します。「ありがとうございます。」

これからも夢や目標をしっかり持ち、武道を通じてたくさんの方々と交流し、ぼくも世界の人々の支えになれるような人に成長していこうと思います。

フランス武徳祭を振り返って

正守和道塾 小学校六年 片山 仁

僕は一日目フランスに行く時、家族と離れて少しさびしかったです。だけど、飛行機の中で映画を見ていたらさみしさも吹っ飛びました。ホテルに着くとホストファミリーの人が待っていてくれました。優しいそうなお夫婦だと思いました。ホストファミリーの家に着くと疲れていてすぐにベットに入りました。だけど、ハエが沢山いて、虫嫌いの僕はとても怖い思いをしました。だけど、ホストファミリーの人がハエを退治してくれて安心して眠れました。

二日目は、武徳祭会議で色々な先生の話を聞いて改めて「日本代表としてここに来たんだ」と思いました。午後は、クレルモンフェラン市を観光しました。最初に火山に行きました。火口まで電車で行き、火口に着くとマグマの跡が沢山ですごくきれいでした。次に市役所に行き、議場を見学しました。普段は入れない場所に子供だけ入れて、すごく興奮しました。

三日目、ホストファミリーがスーパーに連れて行ってくれました。家族や友達、自分のお土産を買うことが出来て楽しかったです。その後、植樹祭に参加しました。太陽がサンサンと輝いてる中、ずっと立っていたので少ししんどかったです。植樹の時に代表に選ばれてすごくほこらしかったです。

四日目、色々な国の人とヴァルカニア遊園地に来ました。その後、バスでリハーサル会場へ向かいました。リハーサルをしてすごく緊張が高まりました。そしてドキドキしていて、明日は今まで以上の力を出そうと決意しました。

五日目、初めての海外での武徳祭ですごく緊張していました。手の平が汗でヌルヌルで棒がすべりました。ヌンチャクは近藤君とリズムが合っていたのでよかったです。ほかの人の演武も、みんな一生懸命していてすごいと思いました。その後、少ししんどくなってみんなに甘えてしまいました。もっと我慢しなければいけなかったと反省しました。

六日目、ホストファミリーとの別れは寂しかったです。リオンの観光では最初に、テットドール公園に行きました。そこで、人形劇を見ました。すごく楽しかったです。次にノートルダム大聖堂に行きました。中には入れなかつたけど外から見る景色もすごくきれいでした。

七日目、リオンから日本に帰ってきました。日本に着くとお父さんとお母さんが迎えに来ていて顔を見たらすごくホッとすれしかたです。

フランスでは、たくさんの方がお世話をしてくれたから、安全に楽しく過ごす事が出来ました。お世話になった人たちに「ありがとうございました」と伝えたいです。



フランス武徳祭並びに 国際青少年武徳祭

国際青少年武徳祭 副団長 渡邊 佳代子

フランス武徳祭ならびに国際青少年武徳祭に出場するにあたり、出発前に豊中市長をはじめ、子どもたちの通う各学校に壮行の表敬訪問をいたしました。「日本代表として頑張ってきて下さい。たくさん楽しんで思い出を作ってきてください。」と送りだして下さった皆さまに結果報告のため、九月十四日(木)午後四時半から豊中市庁舎にて浅利敬一郎豊中市長。九月一日(金)午後五時から豊中市立第十一中学校にて大野俊介校長先生ならびに尾崎理人教頭先生。九月七日(木)午後四時から豊中市立少路小学校にて小谷伸子校長先生ならびに西岡雅美教頭先生を表敬訪問いたしました。

このたびのフランス武徳祭ならびに国際青少年武徳祭は、一九〇七年に日仏協定が締結され百十周年を迎え、また、来年は日仏修好通商条約六十周年を迎えることからこの節目を記念し、日本の伝統武道を通じて国際交流を図り、相互理解の促進と世界平和に貢献するために、さらに世界の未来は青少年にかかっており、武道を通じて各国との親睦を深め、青少年の健全育成を図ることを目的として開催されました。子供たちは、この国際大会でよい成績を残すことはもちろんのこと、ホームステイを通じてフランスが誇る歴史や文化を学ぶと共に、日本の伝統文化の素晴らしさを広く伝える日本文化大使としての使命